

【報告書（抜粋）】

飯網高原観光施設のあり方について

～飯網高原の活性化に向けて～



飯網高原観光施設活用検討会

2018/03/23

－ 目 次 －

はじめに	1
第1章 目的及び背景	
第1節 検討会の目的	2
第2節 検討会の開催経過	3
第3節 飯綱高原の歴史と過去の検討経過	3
第2章 飯綱高原の現況と課題	
第1節 飯綱高原の来訪者	6
第2節 飯綱高原観光施設に係る長野市の歳出	7
第3節 飯綱高原のウィンターシーズンの現況	8
第1項 飯綱高原スキー場の来場者	8
第2項 日本国内におけるスキー人口	8
第3項 長野県内におけるスキー人口	9
第4項 スキー人口が減少した要因	10
第5項 自然環境の変化	12
第4節 飯綱高原のグリーンシーズンの現況	
第1項 飯綱高原のグリーンシーズンの来訪者	13
第2項 飯綱高原キャンプ場、ボート場、小天狗の森の利用料収入の状況	14
第3項 飯綱高原屋外市民ホールの状況	15
第5節 飯綱高原の現況に基づく検証	16
第3章 提案	
第1節 提案の骨子・スキーム	17
第2節 【提案1】 「(仮称)山の駅 飯綱高原」の整備	20
第1項 提案内容	20
第2項 本提案に伴う課題等	21
第3節 【提案2】 既存観光施設のリニューアル	22
第1項 提案内容	22
第2項 本提案に伴う課題等	23
第4節 【提案3】 優れた地域資源の保全と活用	24
第1項 提案内容	24
第2項 本提案に伴う課題等	24

第5節 【提案4】飯綱高原スキー場の事業譲渡等による民間運営	25
第1項 提案内容	25

第4章 財源とスケジュール

第1節 投資財源の考え方	27
第2節 スケジュール	28

第5章 付帯意見

資料

飯綱高原観光施設活用検討会実施要領	30
-------------------	----

はじめに

このたび、将来の飯綱高原に向けて飯綱高原に所在する市有観光施設を、一年を通じて有効に活用し地域の活性化につなげることを目的として、芋井地区住民自治協議会、飯綱高原観光協会、飯綱高原スキー場運営協議会等を構成団体とした「飯綱高原観光施設活用検討会」を設置し、今後の観光施設のあり方や方向性等について検討することとした。

本検討会は、平成28年10月27日の第一回開催を皮切りに、これまで11回に及ぶ検討を重ねてきた。平成29年1月には長野市へ中間報告を行い、その後さらに幅広い見地から議論を重ね、このたびその内容を報告書としてまとめた。

観光施設のあり方については、施設の老朽化や利用者の伸び悩みなど様々な課題がある中、とりわけ飯綱高原スキー場については、スキー人口の減少、温暖化による雪不足、多様化するレジャー等を背景に厳しい経営状況に置かれており、今まさにこの時、将来の飯綱高原を見据えた「選択と集中」を決断する必要があるとの認識で一致したところである。

本書の第1章と第2章では、本検討会の目的や検討の基礎となる飯綱高原の歴史と過去の検討経過、各観光施設の現状、各種統計資料等から課題を整理し、今後の飯綱高原の方向性について検証した。

第3章では、中間報告の内容についてさらに踏み込んだ議論を重ねた結果、飯綱高原における観光戦略は、これまでのウィンターシーズンを中心としたものから来訪者が多いグリーンシーズンへ転換していくこととし、今後重点的かつ優先的に取り組むべき事業として「新たな産業と観光の拠点施設の整備」、「既存観光施設のリニューアル」、「地域資源の保全と活用」、「飯綱高原スキー場の事業譲渡等による民間運営」の4つの項目にまとめた。

第4章では、財源の考え方とスケジュールについて整理し、第5章では本検討会において出された意見を付帯意見として記載した。

なお、本書は飯綱高原観光施設活用検討会として議論してきた内容をまとめたものであり、将来の飯綱高原の観光と地域振興に向けた指針・施策づくりに反映していただくため、長野市へ報告するものである。

平成30年3月23日
飯綱高原観光施設活用検討会
座長 中井 正明

第1章 目的及び背景

第1節 検討会の目的

飯綱高原に所在する市有観光施設を、一年を通じて有効に活用し、飯綱高原の活性化につなげることを目的に「飯綱高原観光施設活用検討会」を設置し、今後の飯綱高原観光施設のあり方について検討することとした。（＜図表1-1＞参照）

図表 1-1 飯綱高原観光施設活用検討会名簿（令和元年8月23日現在に時点更新）

【委員】

所属	役職	氏名
芋井地区住民自治協議会	会長	田 邊 守 人
芋井地区住民自治協議会(飯綱地区区長代表)	区長	山 本 欣 一
(一社)飯綱高原観光協会	会長	西 澤 一 幸
仮称「山の駅 飯綱高原」整備研究委員会	委員長	和 田 智
飯綱高原スキー場運営協議会	会長	中 井 正 明
長野市芋井支所	支所長	竹 内 幸 一
長野市観光振興課	課長	小 林 祐 二

【アドバイザー】

㈱さくら都市総合研究所	代表取締役	清 水 秀 幸
㈱長野京急カントリークラブ	取締役社長	鈴 木 隆 一

【オブザーバー】

環境省戸隠自然保護官事務所	自然保護官	黒 田 和 真
北信森林管理署 戸隠森林事務所	地域統括森林官	宮 坂 利 夫
(一社)長野市開発公社（指定管理者）	案件に応じて相談、出席依頼	
市役所各課（環境政策課、森林整備課等）		
その他関係各所		

第2節 検討会の開催経過（令和元年8月23日現在に時点更新）

検討会は、平成28年10月27日の第一回開催を皮切りに、計11回にわたり飯綱高原観光施設のあり方等について検討を重ねてきた。（＜図表1-2＞参照）

図表 1-2 飯綱高原観光施設活用検討会開催経過

開催数	開催日時	主な検討内容
第1回	平成28年10月27日	スキー場を取り巻く状況、自然環境など
第2回	平成28年11月10日	飯綱高原の現況と課題など
第3回	平成28年11月28日	各種統計に基づく検証、今後の方向性など
第4回	平成28年12月19日	中間報告（案）の検討
	平成29年1月6日	市長へ中間報告
第5回	平成29年2月10日	今後の検討課題、スケジュールなど
第6回	平成29年5月19日	各観光施設の現状と課題など
第7回	平成29年6月29日	各観光施設のあり方、利用促進策など
第8回	平成29年7月28日	〃
第9回	平成29年11月16日	飯綱高原スキー場のあり方、方向性など
第10回	平成29年12月26日	提案の骨子、概要について
第11回	平成30年2月8日	最終報告書（案）について
第12回	平成30年11月26日	サウンディング型市場調査実施結果など
第13回	平成31年4月4日	飯綱高原観光交流拠点施設（仮称）山の駅 飯綱高原整備基本計画（案）について
第14回	令和元年7月11日	飯綱高原交流拠点施設（仮称）山の駅飯綱 高原整備（案）について
第15回	令和元年8月19日	（仮称）山の駅飯綱高原整備事業における 基本的な考え方（案）の公表について

第3節 飯綱高原の歴史と過去の検討経過 略

第2章 飯綱高原の現況と課題 略

第3章 提案

第1節 提案の骨子・スキーム

本章では、第2章での現況と検証に基づき、また、中間報告書の内容についてさらに踏み込んだ議論を重ねた結果、今後の飯綱高原の観光振興の方針、方針に基づく提案の柱を下記のとおりまとめた。

基本的な考え方としては、「ウィンターシーズンからグリーンシーズンへ」の方針のもと、「ウィンターシーズンの財政負担の見直し」→「必要財源の確保」→「グリーンシーズンへの新たな投資」といったスキームの中で、飯綱高原にとって効果的な誘客戦略とは何かを念頭に検証した結果を提案としている。

ウィンターシーズンの財政負担の見直しについては、大胆な発想として「スキー場の事業譲渡等による民間運営」を提案するもので、これにより確保できる財源をグリーンシーズン強化のための3つの事業に投資し、飯綱高原の魅力の向上と誘客強化、さらには、飯綱高原を含む芋井地区全体の地域振興につなげていくことを目的としたスキームとなっている。（〈図表3-1〉参照）

今後の方針・方向性

飯綱高原における**今後の観光戦略は、ウィンターシーズンを中心としたものからグリーンシーズンへ転換**していく

※「観光戦略」… 投資（ハード）、事業（ソフト）

方針に基づく提案概要

提案1 「(仮称)山の駅 飯綱高原」による誘客と地域振興

新たな産業と観光の拠点として、農林産物直売所や観光窓口機能等を兼ね備えた「(仮称)山の駅 飯綱高原」を整備することを提案する。

本提案により、観光客等の誘客が期待できるとともに、併せて、地域産業の振興や雇用の創生、住民の利便性の向上など地域への還元性も高く、地域振興（地域づくり）の効果は高いと考える。

提案2 「既存観光施設のリニューアル」による魅力と利便性の向上

多様化するレジャーや利用者ニーズに対応するため、キャンプエリアや飯綱高原運動広場などの既存観光施設は、改修・拡張等リニューアルすることを提案する。

本提案により、施設の魅力と利便性が向上し施設間の回遊性が高まるとともに滞在時間の延長や利用の促進につながるものと考ええる。

提案3 「優れた地域資源の保全と活用」による魅力の向上

飯縄山、大座法師池、大谷地湿原、一の鳥居苑地などは飯綱高原を代表する観光資源であり、景観上優れた地域資源でもある。このため、これらの地域資源を将来に向けて引き継ぐための保全活動を積極的に進めることを提案する。

本提案により、飯縄山や大座法師池を中心とした優れた自然環境・景観が将来にわたって維持されるとともに観光資源としての魅力が高まり、誘客の強化にもつながるものとする。

提案4 飯綱高原スキー場は、事業譲渡等による民間運営へ

飯綱高原スキー場は、今後民間事業者への事業譲渡等により民間運営に移行することを提案する。

本提案により、民間事業者の創意工夫による効率的な運営と集客が期待され、グリーンシーズンも含めた通年の誘客が可能となる。さらに、グリーンシーズンへの投資財源が確保できるとともに、長野市の将来にわたる財政負担をも抜本的に解決できるなどメリットは大きいものとする。

なお、事業譲渡等が困難な場合は、飯綱高原の将来を見据えスキー場の閉鎖もやむを得ないものとするが、その際は、速やかに国有林野の返還に向けて緑豊かな森林再生を図ることが望ましい。

期待できる主な効果

効果1 観光振興

一年を通じた観光施設の活用と誘客強化、飯綱高原の魅力アップ、観光客の利便性・回遊性の向上、賑わいの創出 など

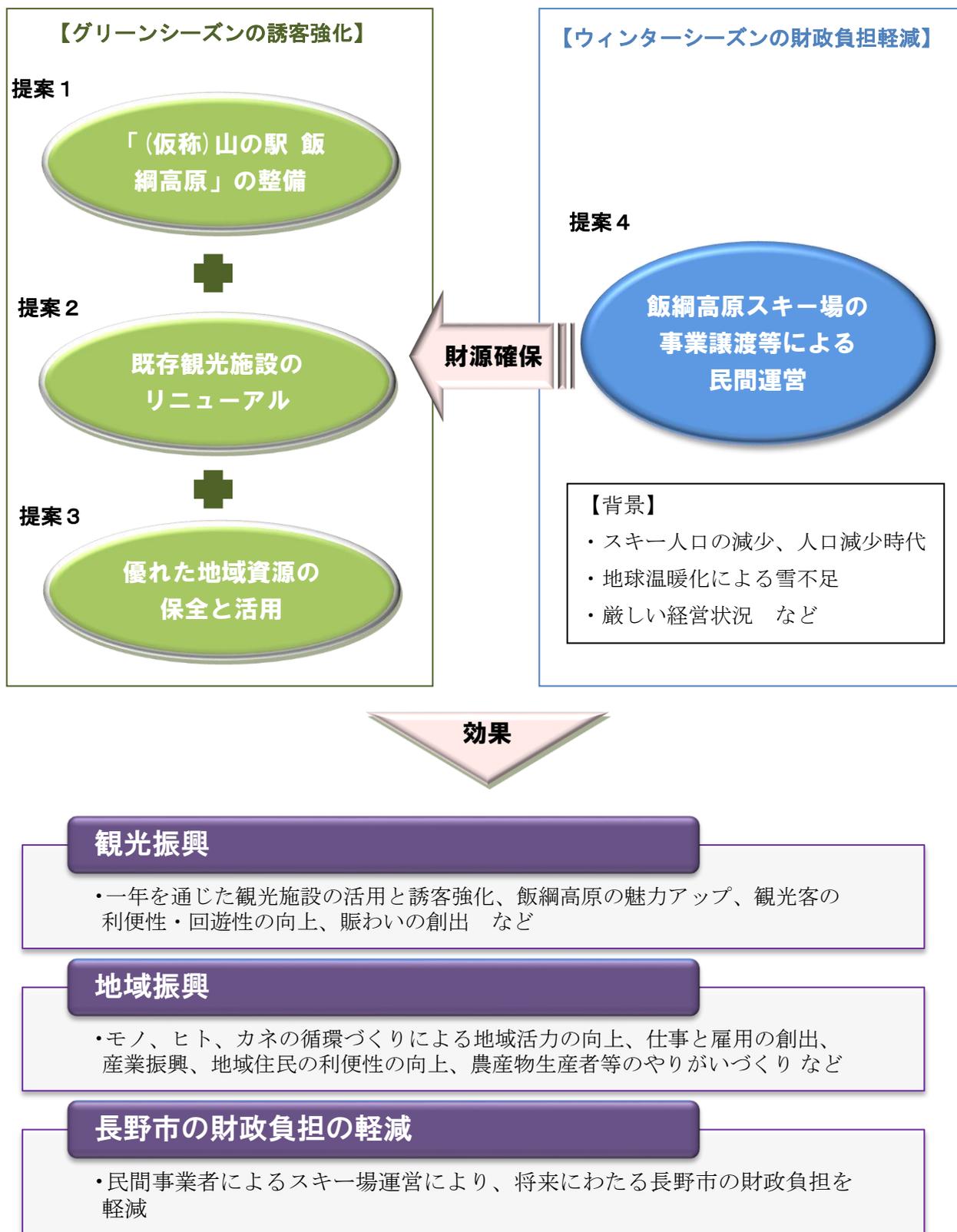
効果2 地域振興(地域づくり)

モノ・ヒト・カネの循環づくりによる地域活力の向上、仕事と雇用の創出、産業振興、地域住民の利便性の向上、農産物生産者等のやりがいづくり など

効果3 長野市の財政負担の軽減

民間事業者によるスキー場運営により、将来にわたる長野市の財政負担の軽減

図表 3-1 提案の構造・スキーム



第2節 【提案1】 「(仮称)山の駅 飯綱高原」の整備 略

第3節 【提案2】 既存観光施設のリニューアル 略

第4節 【提案3】 優れた地域資源の保全と活用 略

第5節 【提案4】 飯綱高原スキー場の事業譲渡等による民間運営 略

第4章 財源とスケジュール 略

第5章以下 略